

NEXT長崎人材育成事業

～ながさき産学官連携シンポジウム～

産学官による学びの連携の取組やその成果を共有しながら、高校における産学官連携の推進・拡大を図る。

○島原商業高校の事例発表

○パネルディスカッション

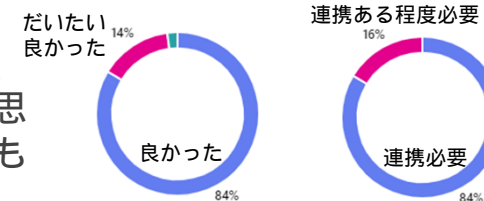
1. 概要：令和7年7月25日（金）長崎県市町村会館 出席者 114名

2. 今後求められる資質・能力

主体性（30人）、創造力（22人）、問題発見力（20人）

3. アンケートの主な意見

- ・イキイキしている社会人と出会うことで、こんな人と一緒に働いてみたい！という思いが芽生え、シビックプライドの醸成にも繋がるものと思う。
- ・産業界の生の声が参考にされるこの事業は活用される意義があり、若い人材の育成に繋がって欲しい。



<アンケート結果>
シンポジウム評価：3.9 / 4点
産学官連携の必要性：3.8 / 4点

分野	パネルディスカッション 主な意見
教員	外部との連携により、授業内容が実社会でどのように活用されているかを学ぶことができる。
生徒	外部講師による授業は楽しく新鮮であり、これまでの授業とは異なる魅力がある。
外部講師	地域課題をテーマに、気持ちを大切にした課題解決を進めている。方言を尊重しつつ、標準的な言葉遣いも教えている。地元が「戻ってこられる場所」であることを意識した授業展開が重要である。
伴走支援	生徒と企業が共に「課題研究発表」を行っている学校がある。企業側も「学びに行く」姿勢で関わっており、相互の学びが生まれている。
高校教育課参事	企業が従業員に誇りを持たせることでホスピタリティが生まれ、会社が良くなる。同様に、生徒が学校や地域に誇りを持てるようにすることが重要である。



NEXT 長崎人材育成事業 ながさき産学官連携シンポジウム 実施報告

1 シンポジウムの概要

(1) 目的

長崎の未来を担う地域産業人材の育成を目指して、産学官連携シンポジウムを開催し、産学官による学びの連携の取組やその成果を共有しながら、高校における産学官連携の推進・拡大を図る。

(2) 主催

長崎県教育庁高校教育課 / 共催 長崎県産業教育振興会

(3) 日時・会場

令和7年7月25日(金) 14時50分～16時40分 ・ 長崎県市町村会館(長崎市栄町 4-9)

(4) 参加者数

県内企業・団体等の関係者 52名 ・ 教育関係者、行政関係者 62名 計114名

2 事例発表の概要

「島原商業高校の産学官連携の取組について」

長崎県立島原商業高等学校 教諭 情報処理科主任 佐々木 亮 氏 ・ 代表生徒
株式会社クラスタス CTO 神崎 健輔 氏

(1) 産学連携と教育の実践

地元企業(日本トータルテレマーケティング、クラスタス等)と連携協定を締結し、実社会に活きる学びを推進。「課題研究」科目で地域資源や企業と連携し、生徒の主体的探究活動を支援。5講座(ふるさと探究、情報探究、ビジネススキル等)で起業力・社会人基礎力を育成。

(2) 空き家問題への生徒の取り組み(課題研究)

島原市の空き家は約3,300戸あり、所有者不明や税制の課題が存在するとう現状。放置による地域衰退を防ぐため、「MIRAIE プロジェクト」を提案。
空き家を民泊として活用し、観光・文化体験を通じて地域ファンを創出。
アプリ開発や空き家バンク連携で、移住促進と経済効果(約54億円)を目指すもの。

(3) 教育改革と起業支援

生徒の気づきから課題を見つけ、地元企業・行政と連携して解決を図るアクセラレーションプログラムを実施。
技術支援や支援団体と連携し、1人ユニコーン企業の創出を目指す。

(4) まとめ:教育と産業界の連携

実践性・対話性のある授業への転換が課題。
教員も企業と連携しながら学び、教育課程の改善を図る。
先進校の視察を通じて、生成AI活用や生徒主体の授業に可能性を感じている。

3 パネルディスカッションの概要

テーマ「地域と連携した学びの可能性と未来への展望」

<パネリスト>

- | | |
|------------------------------|---------|
| ① 株式会社クラスタス CTO | 神崎 健輔 氏 |
| 日本トータルテレマーケティング株式会社 スーパーバイザー | 水田 真美 氏 |
| 島原商業高校 教諭 情報処理科主任 | 佐々木 亮 氏 |
| 島原商業高校 代表生徒 | |
| 株式会社ソフィア 代表取締役 | 廣田 拓也 氏 |
| 高校教育課 参事 | 馬場 剛 |

<ファシリテーター>

- | | |
|--------------|-------|
| 産学連携コーディネーター | 長尾 和弘 |
|--------------|-------|

(1) 発言要旨

【テーマ1】なぜ今、外部講師との「学びの連携」が不可欠なのか

○先生の発言

外部との連携により、授業内容が実社会でどのように活用されているかを学ぶことができる。
特に「Web マーケティング」の授業においては、外部講師の関与が効果的であると感じる。

○生徒の発言

外部講師による授業は楽しく新鮮であり、検定対策の授業とは異なる魅力がある。

○外部講師の発言

授業が単なるボランティアで終わるのではなく、マーケティングにおいては事業収益まで意識したゴール設定が必要である。生徒にその意識が芽生えていることは喜ばしい。
高校教育においては、社会に必要な基本的ルール（言葉遣いや人との関わり方など）を教える機会が必要である。

○伴走支援者の発言

福井県坂井高校では、生徒と企業が共に「課題研究発表」を行っている。企業側も「学びに行く」姿勢で関わっており、相互の学びが生まれている。

【テーマ2】地域とつながる学びが生み出す「郷土愛」と「シビックプライド」の芽生えとは

○生徒の発言

島原が好きだが課題も多く、将来住み続けるかは未定である。
「ビジネスマネジメント」の授業で島原駅の課題に取り組み、地元への関心と改善意欲が高まった。

○先生の発言

「地域課題」を考える授業や市の事業を通じて、生徒が地域改善のアイデアを提案するようになった。

○ファシリテーターの発言

地元の良さは地元の人ほど気づきにくい。都会の生徒との交流によって新たな発見がある可能性がある。

○外部講師の発言

地域課題をテーマに、気持ちを大切に課題解決を進めている。
方言を尊重しつつ、標準的な言葉遣いも教えている。
地元が「戻ってこられる場所」であることを意識した授業展開が重要である。

○伴走支援者の発言

福井県若狭高校では、地元企業と缶詰を作り宇宙に送るプロジェクトを実施。地元企業との連携が郷土愛を育み、県外進学後も地元への思いを抱き続けている。

○高校教育課参事の発言

企業が従業員に誇りを持たせることでホスピタリティが生まれることがある。同様に、生徒が学校や地域に誇りを持てるようにすることも大切。

【テーマ3】 未来へつなぐ学びの連携：生徒たちが描く長崎の未来と、私たち大人の役割

○生徒の発言

授業やアントレゼミの経験を通じて、経済学部マーケティング分野への進学を決意。
情報系専門学校への進学を希望しており、島原商業での学びが進路選択に影響している。

○先生の発言

生徒の進路選択には外部講師との関わりが大きく影響している。

○外部講師の発言

「自分たちでもできる」という自信を生徒に伝えたい。
地元企業の魅力をもっと伝えていきたい。

○伴走支援者の発言

連携には「縦と横」という視点がある。
縦の連携：高校生と大人の関わりによる学びの広がり。
横の連携：県内高校同士の学び合いによる魅力の拡大。

○高校教育課参事の発言

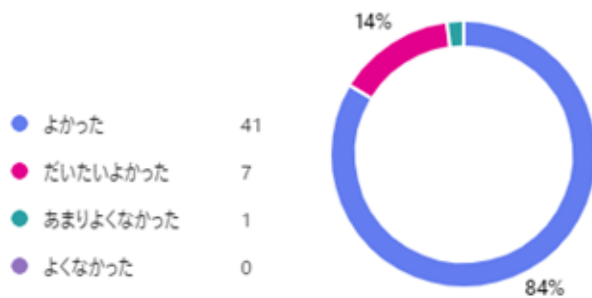
持続可能な地域の未来を目指した連携は始まったばかりである。
「長期的な視点」で次世代のための取り組みを「協働で」進めることが重要である。

4 シンポジウムの様子

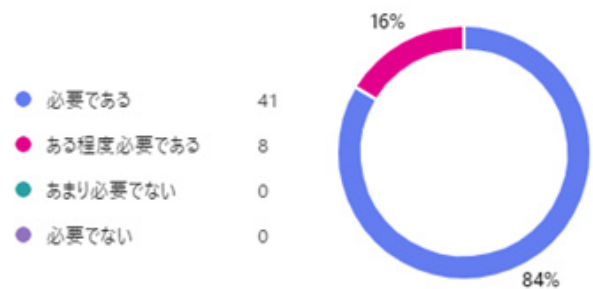


5 アンケート結果(抜粋)

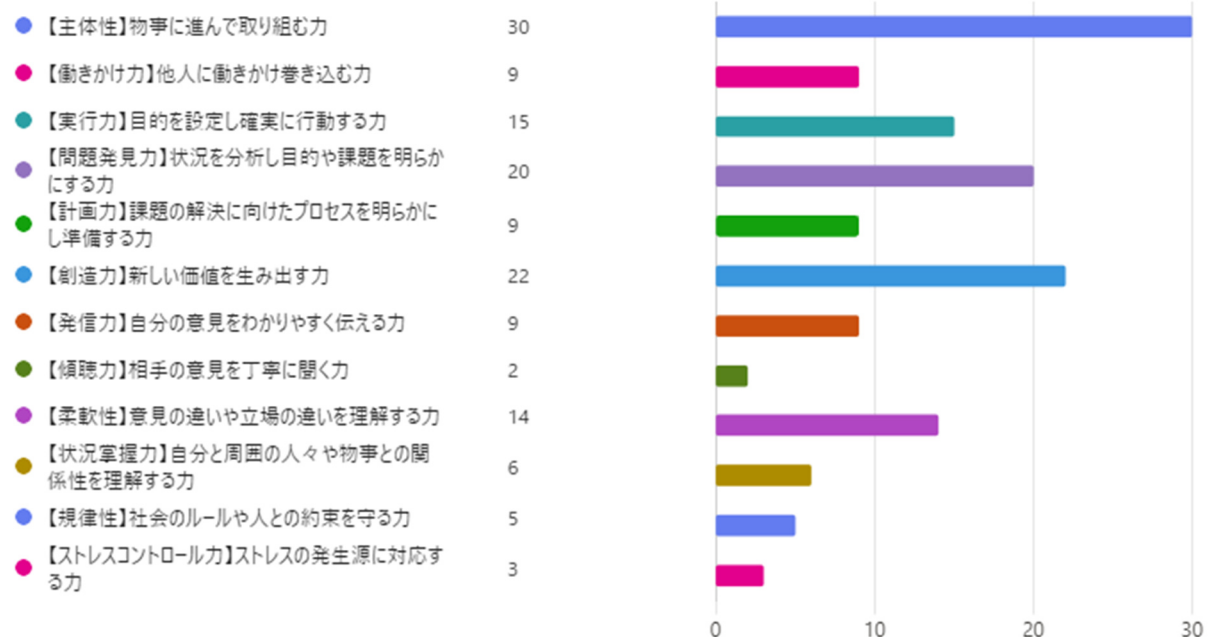
本日のシンポジウムは、いかがでしたか。



産業界と教育現場、県の関係部局の連携・協働の推進についてどのように考えられますか。



地域の産業を担う人材について、今後特に「求められる資質や能力」についてお答えください。（3まで回答可）



<主な意見>

- 学校や学科が育成したい人材と産業界が求める人材をよく吟味・精査し、今後真に必要とされる人材育成を産官学で連携しながら計画的・継続的に取り組む必要があると思います。時の先端技術や流行（それも必要だが）に偏らず、各学校が育成したい人物像をしっかりと持つことが大切であると思います。
- 産業界が慢心せず、選ばれる企業であり続ける努力が必要だと感じました。団体の職員として、そういったことも意識しながら事業に取り組めたらと思いました。
- 学生が早い時期から産業界への理解を深め、産業界との交流機会を増やす。
- 大学関係者として参加させていただいた。今後、県主導でこのような機会を増やしていただき、産学官の「学」については「学びの連携」の観点、育成した高校生を「県内大学 県内就職」と流れを作りたい。
- 学校での学びが社会でどう活かされるのか、どうつながるのかを自身の体験を通して実感できる場として、産業界との連携を密にしていく必要があると思う。
- コミュニケーション能力が高い、ストレス耐性が強い、自ら考え動ける考動力がある、等々の人材を育成していく必要があると考えます。
- 急速な人手不足の中、どの産業も外国人に頼る状態になっている。どの分野でどの程度人材が不足しているか、各産業で段階ごとにどのようなスキルが必要か、これを共有しておくことが重要ではないかと感じています。
- 学生の視点からになるが、インプットだけでなくアウトプットができる場が小さい場所だけでもあるといいと思う。それを定期的にする事でより発信力や主体性を身につけて、社会に出て色んなことをしたいと思う人が増えていくと思う。
- 企業によっては専門高校にレベルの高い即戦力を求められることもあります。しかし、高校までの学習活動では限界がありますので、そのような現状を知ってもらいつつ連携をしていくことが大切。